

授業改善推進プラン

文京区立茗台中学校

教科名（国語）

指導者名（合田あゆみ・池田千尋）

生徒の状況・課題の分析

<p>（第1学年） 中学校に入学して1学期が終了し、中学校の学習形態に慣れつつある。毎回の授業の初めの漢字練習は、ほとんどの生徒が家庭学習で取り組めるようになった。また、授業中の課題には一生懸命取り組み、期限内に提出できている。発表活動では、全員が準備に取り組み、立派な態度で発表することができた。しかし、家庭学習になると、課題が提出できない生徒が各クラス2～3名いるのが現状である。また、提出物が成績に色濃く影響することをよく理解していない生徒もいる。</p>
<p>（第2学年） 授業態度がよく、ほとんどの生徒がよく取り組んでいる。課題も一生懸命取り組み、家庭学習もとても頑張っている。詩や短歌などの作品創作は時間がかかるが、ほとんどの生徒が提出できている。一方、決められた課題が時間内に終わらず、いい加減になる生徒も若干名見受けられる。また、わからないことや、困っていることを言葉にできない生徒や、家庭学習の時間がとれず、課題が提出できない生徒もいるのが気になる。</p>
<p>（第3学年） 授業に集中し、私語もなく取り組んでいる。1年生の時から取り組んできた漢字はよく練習するようになり、高得点もとれるようになった。一方、6人班や4人班で話し合い活動では、話し合いに参加できない生徒が若干名いた。文法は5月の連休明けにテストを行ったが、苦手意識がある生徒がいる。作文を書いたり発表したりする授業では、限られた時間に書くことが難しい生徒もいるのが課題である。</p>

教科の目指す育てたい力

話す力・聞く力（コミュニケーション） 書く力（表現） 問題解決能力

授業改善推進プラン（課題解決のための具体策）

<p>（第1学年） 家庭学習の習慣が、漢字練習をきっかけにして身につけてきたようなので、漢字以外の課題も計画的に学習できるよう働きかける。また、成績にこだわりがありながらも、提出物をおろそかにしている生徒もいるので、提出物をしっかり提出できるよう指導する。発表活動が上手な生徒が多いので、2学期以降は話し合い活動・発表を授業内で行い、活動内容を高めていく。2学期の国語の内容は1学期とは変化を持たせていく。</p>
<p>（第2学年） 時間内に課題が終わらない生徒や、わからないことを質問できない生徒には、なるべく助言をし、課題がとけるよう支援する。また、発表活動では、4人組での話し合い、活動の機会も増やして、班の中で意見を発表し合い、課題を解決する時間を増やす。小集団の中で役割分担を明確にし、必ず全員が発表にかかわれるようにする。宿題など家庭学習の時間が十分にとれない生徒には声かけをして、課題が提出できるように促す。</p>
<p>（第3学年） 話し合い活動に参加できない生徒が若干いるので、4～6人のバズセッションや、1人1人の発表力がつくようなパネルディスカッションを増やす。漢字は、自ら学習する態度が身に付いてきたが、文法は苦手意識がある生徒もいるので、夏季休業中に補充授業を行った。書く力では入試に向けて、作文力をつけるために、夏季休業中に作文や感想文の課題を提示した。2学期の授業でも時間内で作文や感想文を書く機会を設ける。</p>

授業改善推進プラン

文京区立茗台中学校

教科名 (社会)

指導者名 (君島弘基・加藤飛翔・井上弘子)

生徒の状況・課題の分析

<p>(第1学年)</p> <p>非常に意欲的に学習に取り組む姿勢が多く見受けられる。しかし、授業評価アンケートの結果や授業中の生徒の様子を見ると、グループ活動に積極的に参加していない(できない)生徒がやや見られた。また、提出物に関しては前々から告知をしても忘れてしまう生徒や、答えを丸写しして提出してしまう生徒が少なからずいた。漢字に苦手意識をもっている生徒、漢字を正しく覚えられない生徒が多くいることがわかったので、引き続き漢字で書くことの重要性を指導していく必要がある。</p>
<p>(第2学年)</p> <p>全体的には意欲的に授業に取り組む様子が感じ取れる。しかし、1学期の授業アンケートの結果から、「授業が『わかった。』『できた。』と実感できたか」という質問に対し、否定的な回答が16%という不本意な結果であった。今後は、生徒の一人一人の「わかる」「できる」という実感を十分に引き伸ばし、基本的な知識・技能の定着をさらに高めさせる指導の改善が必要である。</p>
<p>(第3学年)</p> <p>授業に対しては意欲的に取り組む姿勢が多く見られるが、生活リズムの乱れからか、集中できないうちの生徒も若干いることがあった。話し合い活動では多くの生徒が積極的に意見を述べ合い発表していた。1年生から継続している小テストに對しては意識が高く、常に直前までノートを確認し満点をめざそうと友達と競い合っている様子が見られた。提出物も3年生を意識してかほぼ提出できるようなこと、100%ではない。定期テストの結果からは地図や資料を活用すること、説明問題に苦手意識を持つ生徒が少なからずいることがわかった。</p>

教科の目指す育てたい力

<p>資料活用の技能 社会の用語をキーワードをおさえた上で説明する能力</p>

授業改善推進プラン (課題解決のための具体策)

<p>(第1学年)</p> <p>資料から読み取った情報を「自分の言葉で」まとめる活動をもっと増やしていく。提出物の案内をもっと大きい紙で掲示し、授業中や終学活でより広く周知してもらおう。また、問題演習を自力で行う意義を考えさせ、ルールを徹底させたい。</p> <p>歴史では中世に入ると言うこともあり、知識のある生徒がすべて発言し、中世の考えを練り直さなければならない。知識のあふれる生徒がため、授業中の発言のルールを練り直し、生徒が考える時間確保を指導していく。提出物や漢字でのノートテイクについては、引き続き重要性を指導していく。</p>
<p>(第2学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料提示の方法やプリントの構成を工夫し、歴史の流れや地域的な特色などに対する理解を促す授業用プリントの作成に努める。 理解したことを自らの言葉で説明する場面をさらに増やし、「わかる授業」「楽しい授業」の実現に向け、尽力する。
<p>(第3学年)</p> <p>学習課題を明確にしている、問題意識を高めていく。授業でわかっていく。話し合い活動も多くなり、積極的に発表するようになる。授業で活用する資料の読み取りや「平和」について興味をもつ生徒の増加を促す。授業で活用する資料の読み取りや「平和」について興味をもつ生徒の増加を促す。</p>

授業改善推進プラン

生徒の状況・課題の分析

(第1学年)

授業に集中して取り組んでいる。基礎的な知識や技能は定着している。一方、アンケートより、発言や話し合いに積極的に参加できていないとの回答が一定数見られた。また、ノートを用いた復習や家庭学習の取り組みについて課題がある。それぞれの活動に対して、生徒毎に大きな差が見られるため、机間指導や個別対応等により、継続的な指導が必要である。

(第2学年)

授業に集中して取り組んでいる。家庭学習(ワーク、復習ノート)の取り組みに大きな差が見られる。全体での取り組み状況は65%である。25%の生徒が、発表や話し合い活動への取り組みに課題がある。

計算コンテストや小テストの実施を通して、9割の生徒が、基礎の定着はできている。

(第3学年)

どのクラスも授業に集中して取り組んでいる。計算コンテストを通して基本的な計算は定着している。また解き方を教えてもらい、問題を解くことは得意である。一方、自分で解き方を考える力は不十分である。また、発表や話し合い活動にきちんと取り組めていない生徒が全体の20%いる。

教科の目指す育てたい力

- ・自ら学び、自ら考える力をつける
- ・基礎的、基本的な知識。表現処理能力を活かし、応用力を身につける。

授業改善推進プラン(課題解決のための具体策)

(第1学年)

生徒が自ら考え、生徒同士で説明し、教え合う活動の機会を十分に設定し、話し合いを繰り返すことで、どの生徒も活動に参加できるように指導していく。また、授業冒頭での小テスト、ノート指導、家庭学習の習慣づけの指導を継続し、基礎的・基本的な知識や技能の定着を徹底する。

(第2学年)

クラス全体や、2~3人の少人数での話し合い活動を授業内に取り入れることにより、自ら学び考える授業を展開していく。また、復習ノートの取り組みを通して、自分の課題や、その課題に対して具体的に何をすべきかを考え、行動する力を身につける指導を行っていく。

(第3学年)

自分で解き方を考える力を身につけて、問題解決型の授業を実践し、どのよたうにか、どうやっていくかを「生徒から引き出す」として、問題解決型授業を目標とし、授業を振り返る楽しさや話し合いの楽しさを伝える。また、発表や話し合いの発表を繰り返すことにより、発表の不安をなくし、発表の環境を作っていく。

授業改善推進プラン

文京区立茗台中学校

教科名（理科） 指導者名（伊藤雅彦・渡辺直樹）

生徒の状況・課題の分析

<p>（第1学年）</p> <ul style="list-style-type: none">・理科に対する関心が高く、授業に集中して取り組むことができている。一方で、基礎的な内容が定着していない生徒も見られる。・実験・観察には積極的に取り組む生徒が多いが、実験器具の正しい使い方が定着していない生徒が見られる。・実験・観察の考察を文章で表現することに、苦手意識をもつ生徒が多い。
<p>（第2学年）</p> <ul style="list-style-type: none">・科学に対して興味・関心をもっている生徒が多くいる。しかし、基礎・基本が定着していない生徒もいる。・実験・観察には積極的に取り組む生徒が多いが、受け身の生徒が多く、指示がないと動けない生徒が多い。また、実験器具の操作が不安な生徒が多数いる。・実験・観察の結果や考察を、説明や発表することに苦手意識をもっている生徒が多い。
<p>（第3学年）</p> <ul style="list-style-type: none">・授業に対する関心意欲は高いが、1, 2年の内容を理解していない生徒が多くいるため、理解度の個人差が大きい。・話し合い活動をする人や授業中の発言が特定の人に偏るようになってきた。・実験・観察の結果や考察を文章で表現したり、発表することに苦手意識をもつ生徒が少なからずいる。

教科の目指す育てたい力

<ul style="list-style-type: none">・実験・観察を安全に行うための技能や自然事象に関する知識・実験・観察の結果や自然事象を客観的に表現し、考察する力・協力し、互いに学び合う姿勢
--

授業改善推進プラン（課題解決のための具体策）

<p>（第1学年）</p> <ul style="list-style-type: none">・単元や分野が終わる毎に小テストを行ったり、宿題を出したり、一人一人に基礎が定着するようにする。・実験・観察の結果はタブレット端末などを用いて、表現したり、考察したりする機会を多くする。・実験・観察を行うにあたって、それぞれ班で話し合い活動や発表・説明する場面を設ける。
<p>（第2学年）</p> <ul style="list-style-type: none">・毎週、小テストを行うなど生徒に基礎・基本を定着させる。・実験開始前に、何が目的かを理解させ行動させるようにする。・実験結果を考察させ、生徒に発言を促したり、文章として表現させたりして生徒の思考力を育てる。・それぞれの班で話し合い活動や発表・説明する場面を設ける。
<p>（第3学年）</p> <ul style="list-style-type: none">・1, 2年生の内容をふり振り返りながらの授業を行う。・発表を前提とする話し合いよりも、個人で考え、班で答えを導く型の授業を行う。そうすることで、わからない人はわかる人に教わり、わかる人は人に教える事によって理解度を高める。・「なぜ、そのような結果になったのか」や「この結果から導かれるものは何か」などの問いを授業中に多く行い、一人一人が文章で表す時間を設ける。また、班でその考えを発表する場面を設ける。

授業改善推進プラン

文京区立茗台中学校

教科名（英語） 指導者名（中山静寿保・西尾洋士・高橋乃枝瑠）

生徒の状況・課題の分析

<p>（第1学年） 英語を話す・聞く活動は、小学校から慣れ親しんでいるため、ほとんどの生徒が積極的に取り組んでいる。ペアワーク・グループワークも前向きに取り組んでいる。しかし、英語を書くことにまだ不慣れな生徒が多く、スペルミスや語順間違いをする。</p>
<p>（第2学年） アクティビティーや授業内活動など、英語を話したり聞いたりする活動には積極的に取り組む生徒が多い。しかし既習事項を使い、英語で書いて表現することでは、ミスが目立ち正確性に欠ける。</p>
<p>（第3学年） 英語の授業にも慣れ、多くの生徒が積極的に英語を使ってクラスメイトと会話をする様子が見られる。しかし、復習や家庭学習など基本的学習習慣が身につけていない生徒が若干名見られる。</p>

教科の目指す育てたい力

<ul style="list-style-type: none">・英語を積極的に使い、コミュニケーションを取ろうとする態度。・初歩的な英語を使って伝えたいことを表現する力。・英語を聞いたり、読んだりして概要を理解する力。・英語や外国文化に対しての知識をもち、それを理解する力。

授業改善推進プラン（課題解決のための具体策）

<p>（第1学年）</p> <ul style="list-style-type: none">・既習事項を常に復習させながら繰り返し指導していく。・毎回ワークシートで英語で表現し書く作業を行い、チェックし指導していく。・授業の中で家庭学習へ繋がる練習などを多く取り入れ、定着を図る。・学習意欲の向上や基礎学力定着の為、継続的にスペリングコンテストや小テスト等を実施していく。・継続的に音読テストやスピーチを実施し、様々な状況で相手とコミュニケーションをとりながら、基本文型を身に付けさせるように指導していく。・授業中に英語に触れる機会を多く持たせ、積極的に活動に取り組む姿勢を高めていく。また、ペアやグループワークを行い、お互いに学びあえる指導の工夫をする。
<p>（第2学年）</p> <ul style="list-style-type: none">・1, 2年の既習事項を小テスト形式で行ったり、コミュニケーション活動を取り入れるなど、授業導入時に必ず振り返りを行う。・3文英作文など英語を書く課題を宿題に取り入れるなどし、英語を繰り返し書くことに慣れ、正確に英語表現できる力をつける。・スペリングコンテストや授業内小テストで単語力、熟語力の向上を図る。ペアワークやグループ活動のなかで、基本構文の理解を図り、少しでも英語で発信できる能力の向上を図れるよう指導する。
<p>（第3学年）</p> <ul style="list-style-type: none">・帯活動などで、会話を継続させたり膨らませたりするために必要な表現を繰り返し使わせる。・リスニングの練習問題を年間で35回程度取り入れ、英語の音声に慣れさせる。・単元ごとにテストを実施することにより、既習言語材料の定着が図られているかを自覚できるようにする。・ペアワークやグループワークを毎回取り入れ、学び合いができるようにする。

授業改善推進プラン

文京区立茗台中学校

教科名 (音楽) 指導者名 (阿部 暁)

生徒の状況・課題の分析

<p>(第1学年)</p> <p>・ 明るく積極的な態度で表現活動に取り組んでいる。また鑑賞にも興味をもち、授業への参加態度は良好である。一方、楽典事項に対する苦手意識が強く、楽譜を読みながら演奏するなどの基礎力が不足している。</p>
<p>(第2学年)</p> <p>・ 落ち着いた態度で授業に参加しており、比較的基礎力もついている。歌唱でも合理的な発声について関心をもつ生徒が多く、鑑賞でも時代背景と関連付けながら楽曲を総合的に捉えようとする態度が見られる。</p>
<p>(第3学年)</p> <p>・ 歌唱などの表現活動には大変積極的な態度で参加している。また鑑賞でも既習事項と関連付けてより多面的に楽曲をとらえようとしている。意見を求めると、理解はしていても遠慮する生徒が多く、一部の生徒ばかり発言してしまうことがある。</p>

教科の目指す育てたい力

<ul style="list-style-type: none">・ 指導内容を踏まえ、既習曲はもちろん、初見の楽曲でも自ら構成を分析し、演奏を工夫できるようになるための応用力・ 歌唱、リコーダーなど授業で扱う事項を生かし、他の表現活動でも自ら音楽を楽しむことができる基礎知識や演奏技能・ 時代背景や地域性など様々な要素を踏まえ、多面的に音楽を鑑賞するための基礎知識
--

授業改善推進プラン (課題解決のための具体策)

<p>(第1学年)</p> <p>・ 簡単な初見視唱や聴音を常時活動に取り入れ、読譜への苦手意識がなくなるようにする。</p> <p>・ 歌唱のための合理的な発声や、管楽器のアーティキュレーションなど基本的な奏法を知識として定着させることで、生徒が自主的により良い演奏を目指して努力する態度を身につけさせる。</p>
<p>(第2学年)</p> <p>・ 生徒が興味関心を高められるよう、教科の資料はもちろん、他教科等の資料や映像資料等も活用しながら、より多くの関連事項を指導する。</p> <p>・ 楽曲の諸要素や構成の特徴に気づき、自ら表現の工夫ができたり、合理的な発声で豊かな歌唱活動ができたりする発展的な能力が身につくような指導を工夫する。</p>
<p>(第3学年)</p> <p>・ 音楽の諸要素や構成の面白さに気づき、自ら表現の工夫ができたり、合理的な発声で豊かな歌唱活動ができたりする発展的な力が身につくような指導を工夫する。</p> <p>・ グループで話し合いをさせてから発表をさせるなど、一部の生徒に発言が片寄らないように工夫をする。</p>

授業改善推進プラン

生徒の状況・課題の分析

(第1学年)

授業の取り組み方や課題に対して、真面目に取り組む姿勢がみられる。興味関心をもって授業に臨んでいる。一方、道具や材料の使い方に未熟さが目立つ。

(第2学年)

1年次は基礎的な技術の習得が多かったことでほとんどの生徒が意欲的に取り組むことができたが、3学期になって少し難しくなるとどうしていいかわからないという生徒も出ていた。2年になって全体的には授業に対する姿勢は崩れていないが、遠近法などの図法になると諦めようとする生徒もいる。こうした生徒の対応が課題である。個別指導の仕方を工夫していくことが課題である。

(第3学年)

3年になって授業にしっかり取り組もうという意識は高い。しかし、準備不足に対して学習・作業の基本であることを継続して指導したところ、作品制作の為に資料用意等、多くの生徒に改善が見られたが、まだ一部の生徒は授業に向かう姿勢が不十分である。全ての生徒が関心・意欲を高めていけるようにICT等を活用し、授業研究を重ねていく必要がある。

教科の目指す育てたい力

- ・自ら創造し、発想する力
- ・基本的な美術の知識や発想力を応用できる力

授業改善推進プラン (課題解決のための具体策)

(第1学年)

短時間題材を増やし、基本的な技法、多様な道具の使い方の指導を繰り返すことができる授業に改善する。基礎的な知識や基本的な技術を理解し制作しようとする姿勢をより高めるようにする。

(第2学年)

目標に到達している生徒はより応用力のある目標を。到達できない生徒には、任意の時点で到達ラインを下げられるような授業に改善していく。基本的な学習内容は変えずに、より表現方法を多様化することにより、誰もが達成感を持てるように計画する。

(第3学年)

授業準備不足に対して学習・作業の基本であることを継続して指導し、作業時間を増やすように継続指導していく。
3年は進路と向き合うときに必然として自分に向き合うようになる。自分を深く掘り下げ手いくような導入を工夫し制作に関する意識を高めていくとともに、ICT等を活用し、誰にでもわかりやすい授業研究を重ねていく。

授業改善推進プラン

文京区立茗台中学校

教科名 (保健体育) 指導者名 (山内卓司・西戸憲太郎・吉田三四郎)
生徒の状況・課題の分析

<p>(第1学年)</p> <p>準備体操や補強運動から大きな声で取り組み、どの分野にも意欲的に取り組むことができる学年である。授業アンケートからは、「発言・話し合いなどに積極的にしていますか」という質問に対し、あまりそう思わないという生徒が数名いたので、自分の意見を伝えることが苦手な生徒や運動に対する思考・判断が苦手な生徒がいることが課題である。</p>
<p>(第2学年)</p> <p>どの分野にも意欲的に取り組むことができる学年である。運動が得意な生徒が運動を苦手な生徒をサポートしたり、練習中や試合のときには、前向きな声掛けをすることができる。学習カードやタブレット機器の活用にも慣れ、自分の課題の発見・解決に一生懸命に取り組むので、運動に対す思考力・判断力が向上してきている。その一方で、自分の意見や考えを発表したり、友達に説明したりすることが苦手な生徒もいる。</p>
<p>(第3学年)</p> <p>授業への興味・感心が高く、意欲的に取り組んでいる生徒が多い。大きな声を出して準備体操を行ったり、周りの生徒に積極的に声を掛けたり、大きな声も多々ある。運動が苦手な生徒に得意な生徒が教えるたり、フットボールや声掛けをするなど、チームワークを大切にすることを学んだこと、練習方法を工夫するところも全員が試合に参加したり、楽しみながら練習できるようにしていく。</p>

教科の目指す育てたい力

<ul style="list-style-type: none"> ・運動に対する関心・意欲・態度の向上 ・自ら課題を発見し、解決する能力の育成 ・仲間との上手なコミュニケーションを図る力の育成

授業改善推進プラン (課題解決のための具体策)

<p>(第1学年)</p> <p>2学期では、話し合いに積極的に取り組み、学習カードの工夫やタブレット機器を多く取り入れる授業を展開していく。学習カードでは、お互いのスキルをアップさせる。タブレットは、種目の特性に応じて活用し、録画したものを再生するだけでなく、コマ送り再生も活用していきたいと思う。</p>
<p>(第2学年)</p> <p>2学期では、自分の意見や考えを伝えていく場面を多く取り入れていく。例えば、グループワークや学習カードの活用など、発表の機会を多く取り入れていく。発表の場面で、自分の考えや意見を伝える際に、自分の考えや意見を整理し、発表できるようにしていく。発表の場面で、自分の考えや意見を整理し、発表できるようにしていく。</p>
<p>(第3学年)</p> <p>2学期では、自らの課題やチームの課題を発見し、解決できるように話し合いの時間を活用したり、運動の得意な生徒にアドバイスを求める。発表の場面で、自分の考えや意見を整理し、発表できるようにしていく。発表の場面で、自分の考えや意見を整理し、発表できるようにしていく。</p>

授業改善推進プラン

文京区立茗台中学校

教科名 (技術) 指導者名 (山本 博敏)

(第1学年)

授業、実習への興味関心が高く、意欲的に取り組んでいる生徒が多い。班員同士で協力し、より良い道具の使い方を考えたり、より良い作品を作るために努力したりする姿勢が見られる。積極的に声を掛け合い、注意しあう生徒と、自分からは声をかけづらい生徒、自分だけに集中している生徒がいる。自分や班の課題を発見し、工夫する力を身につけさせる。

(第2学年)

授業、実習への興味関心が高く、意欲的に取り組んでいる生徒が多い。2学年で行うエネルギー変換の分野は理科と重なる部分も多く、苦手意識をもつ生徒もいる。疑問や分からないことを自分から声に出せない生徒もいるので、班での話し合いで個の意見を出せる場面をつくり、課題を発見し、工夫し創造する力を身につけさせる。

(第3学年)

授業、実習への興味関心が高く、意欲的に取り組んでいる生徒が多い。一方、実習と座学の意欲の差が大きい生徒もいるので、座学においてもグループワークや話し合いの場を増やし、新たな事実を発見し、自らの生活に還元できるようにさせる。

教科の目指す育てたい力

- ・生活から発見し、工夫・創造する力
- ・生活に必要な知識・技能

授業改善推進プラン（課題解決のための具体策）

(第1学年)

・自らの生活を振り返り、自分や班の課題を発見し、より良い工夫ができるように、実習を行いながら話し合える時間を作ったり、実習だけではなく話し合った成果を記録できるワークシートを作成したりする。また活動中に助言を行い、話し合いがより活発になるように工夫する。

(第2学年)

・自らの生活に取り入れられるように、自分や班の課題を発見し、より良い工夫ができるように、実習を行いながら話し合える時間を作ったり、実習だけではなく話し合った成果を記録できるワークシートを作成したりする。また、活動中に助言を行い、話し合いがより活発になるように工夫する。

(第3学年)

・2学期以降はグループ活動を行う場面が増えるので、自分や班の課題を発見し、より良い工夫ができるように、実習を行いながら話し合える時間を作ったり、実習だけではなく話し合った成果を記録できるワークシートを作成したりする。また活動中に助言を行い、話し合いがより活発になるように工夫する。

授業改善推進プラン

文京区立茗台中学校

教科名（家庭科）

指導者名（福島 佐知子）

生徒の状況・課題の分析

- (第1学年)
- ・身近な課題に関心が高く、学習の取り組みが意欲的である。
 - ・技術や速さに差が見られ、この差を縮めることが課題である。
 - ・授業時の発言・発表により、多くの生徒が参加できるようにさせていくことが課題である。
-
- (第2学年)
- ・成長期の食生活について、関心をもって授業に取り組む生徒が多い。
 - ・「食」に対する知識を日々の食生活に応用・実践できるようにするのが課題である。
-
- (第3学年)
- ・「保育」の分野では、自分の幼児期を振り返りながら、家族の役割に関心をもち授業に取り組む生徒が多い。
 - ・身近に幼児と触れ合う機会が少ないため、知識を習得しても体験学習に結び付けられないため、実践できるようにさせることが課題である。

教科の目指す育てたい力

- ・ものづくりの基礎的な知識や技能を習得し、生活に活用できる力
- ・製作を通して、やり遂げる力や責任感・協調性

授業改善推進プラン（課題解決のための具体策）

- (第1学年)
- ・被服製作を通して、習得した知識・技能を定着させる。日常生活の中で活用できるように取り組む。
 - ・技術力の差は、グループや個別指導を取り入れる。
 - ・衣服・住居に関する学習や実習を通し、レポート作成・発表する活動を通して、関心や理解を深めさせる。
 - ・長期休業中の宿題として、家庭で行える「アイロンがけ、洗濯」について課題・レポートを取り入れる。
-
- (第2学年)
- ・「食物」の学習を通して、健康の保持、成長するための「食」の知識・技能の大切さを学習させる。
 - ・アクティブボードを活用し、動画で調理の手順や作業内容を説明し、基礎技能を定着させる。
 - ・学習した内容を確認する。⇒長期休業中の宿題として「献立を立てる・実習・考察」のレポートを取り入れる。
-
- (第3学年)
- ・家庭と家族関係の学習を通して、家族の一員であることの認識を持たせる。
 - ・アクティブボードを効果的に活用し、基礎的な知識を理解させる。
 - ・調べ学習や幼児のおもちゃ製作を通して、幼児への関心や理解を深める。